

予防医学・臨床疫学

科目責任者 小 橋 元

学年・学期 3 学年・2 学期

I. 前 文

臨床医学における診断と治療の「根拠 (evidence)」は、臨床疫学研究により作られる。根拠に基づく医療 (Evidence-Based Medicine (EBM)) の技法は、臨床専門医にとってはもちろん、地域医療を担う総合診療医師にとっても必ず身につけておかねばならないものである。一方、人の集団を扱う疫学の素養は、臨床研究及び公衆衛生分野の研究を目指す場合に、独力で研究の発案、遂行、解析ができるようになるための基本的なものである。本講義および後のデータ解析実習で扱う内容は、学生諸君が将来どのような領域に進んでも必要となる貴重な知識と技術である。

ぜひ、研究データの向こう側にいる人々の姿をイメージしながら、ぜひ主体的、積極的に取り組んでほしい。

II. 担当教員

教 授	小 橋 元	(公衆衛生学)
教 授	春 山 康 夫	(研究連携・支援センター)
准 教 授	内 山 浩 志	(公衆衛生学)
准 教 授	大 谷 直 由	(日光医療センター 循環器病センター)
講 師	高 岡 宣 子	(公衆衛生学)
講 師	高 橋 競	(公衆衛生学)
講 師	小笠原 健	(基本医学 基盤教育部門)
助 教	阿 部 美 子	(公衆衛生学)
助 教	高 山 英 士	(公衆衛生学)
外部講師	大 木 いずみ	(埼玉県立大学)

III. 一般学習目標

予防医学・臨床疫学の考え方と基本的な方法論を理解し、疫学の諸指標の計算方法及びその意義を学ぶ。また、それらが公衆衛生・臨床医学における種々の健康問題を解決することにどのように役立っているかを講義と実習によって学習すると共に、社会人、医師の基本素養としての根拠に基づく医療 (EBM) について学ぶ。

IV. 学修の到達目標

- 1) Evidence-Based Medicine (EBM) について説明できる。
- 2) 臨床疫学について説明できる。
- 3) 疫学の諸指標の概念及び計算方法を把握する。
- 4) 文献検索方法を把握する。
- 5) 疫学の方法論について説明できる。
- 6) 疫学研究実践法について説明できる。
- 7) 研究倫理について把握する。
- 8) 実際に行われた疫学研究データの統計解析方法を把握する。
- 9) 研究の社会実装について説明できる。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1 : 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態))
2 : ディスカッション, デイバート 3 : グループワーク 4 : 実習, フィールドワーク 5 : プレゼンテーション
6 : その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
1	9	11	月	1	予防医学概論	小 橋 元	1
2		11	月	2	疫学指標, 研究方法 (1)	春 山 康 夫	1
3		19	火	4	疫学指標, 研究方法 (2)	春 山 康 夫	1
4		19	火	5	がんの疫学と予防	大 木 い ず み	1
5		21	木	1	臨床研究と治験	大 谷 直 由	1
6		21	木	2	根拠に基づく医療 (EBM) 概論	小 橋 元	1
7		29	金	1	年齢/交絡調整法	内 山 浩 志	1
8,9		29	金	2,3	データ解析実習	小橋, 春山, 内山, 高岡, 高橋, 小笠原, 阿部, 高山	4
10	10	3	火	1	健診とスクリーニング	内 山 浩 志	1
11		3	火	2	地域における疫学研究	高 橋 競	1
12		13	金	2	さまざまな疫学研究	小 橋 元	1
13		13	金	3	健康教育とヘルスプロモーション (SDHも含む)	小 橋 元	1

VI. 評価基準 (成績評価の方法・基準)

原則として, 定期試験 (80%), 講義中の小テスト・レポート, 出席状況等 (20%) によって総合評価する。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

教科書

はじめて学ぶやさしい疫学 南江堂

読んでわかる! 疫学入門 大修館

参考図書

臨床疫学 医学書院MYW

公衆衛生がみえる メディックメディア

疫学マニュアル 南山堂

VIII. 質問への対応方法

- ・原則的には, 講義の中で対応する。
- ・担当教員に連絡し, オフィス・アワーもしくは指定された日時に質問に行くこと。

連絡先 (公衆衛生学講座: 内線番号2269)

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	◎
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	◎
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	◎
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	◎
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験の内容については非公開。レポートのフィードバックは課題による。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

シラバス別冊参照。なお、シラバス別冊に記載が無い場合、要点を確認しておくこと。（所要時間の目安20分）

XII. コアカリ記号・番号

シラバス別冊参照。